

# 日本におけるコレクティブハウジングの普及推進に寄与する実践と包括的研究



近年、少子高齢化や核家族化・単身世帯化が進行している一方で、人ととの直接的な触合いも加速的に減少してきている。そして個人や家族の地域からの孤立化はさまざまな社会問題の背景となっている。また、昨年発生した東日本大震災を期に、家族や人ととのつながりや絆の大切さが再認識され、コミュニティを再生する取り組みがあらためて注目されている。住領域における取組の一つが、「コレクティブハウジング」という住まい方、考え方である。

## 啓発普及推進活動（1980年代後半～）

小谷部は日本にコレクティブハウジングを紹介し、20年以上にわたって国内外のCHの研究を継続的に行ってきました。1993年には普及推進のための活動グループALCCを、2001年には事業実現のための組織としてNPOコレクティブハウジング社を仲間とともに立ち上げ、2003年には東京・日暮里に「コレクティブハウスかんかん森」（以下、かんかん森）を誕生させた。かんかん森は日本初の居住者による自主運営自主管理の賃貸型コレクティブハウスである。



## 居住者によるコレクティブハウスの住運営実践

かんかん森の住運営システムは、海外の事例をベースにしながらも入居前のデザインプロセスの中で居住者自身が構築した、居住者組合「森の風」による自主運営である。合理的で豊かに暮らすために、モノ・コト・スペースを共有し、その運営を共に行うことで居住者同士の信頼関係が育まれている。その住運営実践は、かんかん森に続く新たなプロジェクトの原点となっている。2006年には居住者の有志が株式会社を立ち上げ、事業主から一括借上げを行うとともに、入居者募集も行っている。近年、地域コミュニティの重要性が再確認されており、居住者によって主体的に形成されるこのような住コミュニティは地域の社会的ストックとしても期待される。

## フィールドを通じた継続的研究の展開と実践的研究

居住者組合との連携によるかんかん森を対象とした継続的な暮らしの実態調査は、居住者自身が客観的に運営方法の有効性や居住性などを考える機会となり、「森の風」にフィードバックされた結果は住運営に反映され、さらに次の研究課題を生むという相互関係を築いた。2006年に立ち上げられた「住総研コレクティブハウジング研究委員会」は、これまでの活動や既往研究を総括し、環境計画系、事業計画系の研究者を加え、多角的な視点での共同研究、とくに、社会的課題となっている集合住宅のストックを活用したモデル事業の試案を行った。これまでの一連の研究成果を報告書としてまとめ、引き続き検討を重ね、一般読者向けの書籍として『第3の住まい コレクティブハウジングのすべて』を出版した。



小谷部育子  
コレクティブハウスかんかん森居住者組合「森の風」  
住総研コレクティブハウジング研究委員会